

七月二六日

大学院最終日講義。西谷先生と昼食。トーマス、ホセそれぞれ相談。午後鹿島建設宮坂来室。非常に元気で私の方が押されてしまふ位だった。詳しくは聞かなかったが運が向いて来るようだと説明していた。良かった。彼は計画系の私の研究室で優秀な人材であったが私はその天性の明るさ率直さを評価してあえてゼネコの施工、つまり現場へ推薦した。私の眼に狂いは無かったようだ。今は実は生きてゆくの努力がいるからこそ面白い時代だ。宮坂君は独特な選択をしたからこそ今、生き生きとしていられる。石山研を出て、ゼネコの施工現場に行くという工夫努力が今になって生きているように思う。同窓の諸君も元氣になれない人が大部分だろうが、宮坂は元氣であるから大丈夫。一人でも前向きな人間がいる間は研究室の同窓は皆大丈夫ということなのである。宮坂の運が本当に良い方向へ向くのがはつきりしたら、私が主催して同窓会でお祝をしてやろう。

七月二七日

昨夜は冷房の無い地下スタッフと暑い寒い論議が涌きおこり。結果私の席が最も暑い場所へ移る事になった。光がさんさんと降り込む奥の場所。一番良い場所なのにそこから移りたがる気持ち解らない。光が降り込めば少々暑くなるのは理の当然。その理を呑み込んでしまえば暑さは耐えるものではなく、楽しみ

になるのに。マア今日から勝負だ。この勝負は高くつくぞ。

今日は大学院の院試面接と合否判定会がある。

朝七時屋上菜園に上り草むしり。ビツシヨリ汗をかく。朝九時地下には松本たった一人。たるんてる。まだまだ学生と変わらない俺のスタッフは。この夏に集中してしぼる必要がある。

十時大学院入試面接。三名をとる。今年は九名で、うち一人を退学させて社会勉強させる予定である。十五時キンさん(台湾)来室。十七時世田谷に帰る。昨日藤塚世田谷村撮影今日#2渡辺邸撮影。GA坂下君も今日#2撮影したもよう。住宅建築でオーブンテックハウスのミニ特集を組む事になっていて、書き手は高山建築学校の海光君。住宅のまとめ方を工夫してみよう。

七月二八日 日曜日

久しぶりの休日。二十世紀・日本の建築、全国縦断連続公開セミナーの記録に手を入れる。十五時前終了。コレでやつと一つ債務返済を果たした。全部読み直してみると、意外にこれが面白くて熱中してしまった。私にとっては毎回日本各地の温泉に友人達と行けるのだけが楽しみのシンポジウムではあったが、流石あれだけのメンバーが登場して、話し合ったのだから、それなりのものは集積していたんだな。

世田谷村2F3Fにすだれとよしずを懸けた。メタルとガラス、要するに平滑面をもつ物質に吸着する吸盤装置を得たから、できた仕事である。二階三階それぞれ幅6M弱程のよしず、すだれを懸けただけで、室内の明るさは適度に暗くなり、気分は全く和風になってしまった。我家の夏はいきなり和風というか、プリミティブ・アジア風になった。十九時ヘレン・ケラー・セミナー棟のスケッチを始める。

二〇時ギヤラ間一〇〇回記念展用の作品解説書く。

七月二十九日

今日は曇りでしのぎやすい温度である。九時ミーティング。十時ヘレン・ケラー関係スケッチをすすめる。聖徳寺の新しい考えが生まれる。地中の建築を作ってみたいのだな今私は。地下昼食は私の手製そうめん。午前中スケッチをしたら、大体二件程できってしまったので午後はヒマになってしまった。ゼロシエルトアのスケッチをする。

今日は集中してスケッチをしたので大部懸案の物件に目途がついた。十九時、これ以上は集中できぬと判断し、作業を終えた。エネルギーを集中させるのはこれ位が今の体力では限界だろう。

夜は読書と原稿書きで別の頭を使ってみよう。色んなアイデアが沸き出た日はいささか気持ちが高振って眠れない事が多いから。